

明日へつなげる岐阜市の自然

自然ふれあい活動支援ワークショップ

第53号 平成20年3月発行

○はじめに

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとした誇るべき自然環境が多くあります。その一方、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備により、貴重な自然環境が減少しているのもまた事実です。

このような状況の中、岐阜市の素晴らしい自然を市民・地域共有の財産として次世代へと引き継ぐため **市民と行政の協働による「自然ふれあい活動」**に取り組みます！！



大洞地域 保全活動の更なる展開において現地視察

- ・大洞の自然のすばらしさとは！（2月28日）
- ・これからの保全活動の発展に向けて

○大洞の自然のすばらしさとは！

2月28日、大洞地域の湿地保全活動に取り組んでいる地域住民の方々や自治会連合会長さん、岐阜大学地域科学部の肥後先生および学生の皆さんと一緒に、大洞の里山散策を行いました。この散策では、これまで保全活動を行ってきたフィールドや、これから活動を展開できそうな環境を肥後先生に確認して頂きました。また、散策しながら、現在の保全活動を将来的に地域全体へと広げていくための意見交換を行いました。

まず、参加者一同が訪れたのは、既に保全活動が行われている場所です。現地を散策しながら、これまでの活動の経過について説明を受け、活動の目的と方向性について確認しました。これにより、専門家の目から見ても、この活動の重要性や効果、また、大洞の自然の多様性、貴重性があらためて確認されました。



田園風景が広がる大洞



岐大の肥後先生と一緒に散策し、保全の方向性について意見を伺いました



間伐によって林内にも湿地にも光が差すようになりました





貴重な植物も色々な場所で確認することができました。

里山整備により、林内に光が入るようになりました。このような光環境の創造が、多種多様な生物の生息空間を確保します。



○これから保全活動の発展に向けて

次に、“現在の保全活動をどのように地域全体に広げていくことができるのか？”を検討するために、周辺地域の散策を行いました。

大洞には、現在保全活動を行っている場所以外にも、貴重な雑木林や湿地が残されています。しかし、そのような環境も今後放置し続ければ荒廃し、自然度の低い薄暗い藪や雑草の茂る荒地となってしまいます。

このような状況を改善するため、なるべく早い段階で、保全対策を実施していく必要があることを確認しました。また、自治会連合会長さんからは、“まちづくり”という観点から、里山整備活動の推進が以下の点において有効との考えが示されました。

①活動を通して地域の自然が守られるとともに、地域の自然に対する意識を高める。

②昔ながらの心安らぐ里山の風景を取り戻す。

③里山が地域交流の場となり、地域を元気にする。

また、今後活動を推進するにあたっては、予め地元の小中学校、幼稚園等との連携も視野に入れながら計画づくりを進める必要性について意見を頂きました。

○おわりに

大洞には、今もかけがえのない貴重な自然が残されています。その自然を守るため、地元自治会をはじめ、市民団体や専門家など様々な人たちがアイデアを出し合い、計画づくりに取り掛かるようとしています。岐阜市はこれからも、このような地域を主体とした自然環境保全活動を支援していきます！



休耕田も湿地として重要な自然環境要素ですが、適度に管理しないと荒地化してしまいます。



里山的な景観を整備することで、地域住民の方々にも地元の自然に関心を持ってもらうことができると思います。

岐阜市自然ふれあい活動に関する問い合わせ

岐阜市 人・自然共生部 自然環境室 担当：吉村

TEL：058-265-4141（内線：6452） FAX：058-267-1374

E-mail：shizen@city.gifu.gifu.jp

自然環境室 HP アドレス：http://www.city.gifu.lg.jp/c/12050000/12050000.html